

「理想」の看護の原形が ナイチンゲールにあるならば、

看護師は、社会イノベーターたれ!

取材・構成 医療福祉ライター 今村美都

キヤンサー・ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

桜井なおみさん



キヤンサー・ソリューションズ社員の駒形さん(右)と。彼女もまたがんをきっかけにCANSOLのメンバーに。

自身のがん体験から、
がん患者・家族を取り
巻く環境、とりわけ
就労問題の改善に取り
組むべく、キヤンサー・
ソリューションズ株式会
社(CANSOL)やNPO
法人HOPEプロジェクト、
一般社団法人CSRプロジェ
クトと様々な組織を立ち上げ、
活動を続けてきた桜井なおみさ
ん。悲願の「改正がん対策基本法」
の成立直前、師走の慌ただしい一
日、CANSOLのオフィスにて、
看護師に望む思いを聞いてみました。

「キヤンサーIIがん」を
取り巻く課題への実現可能な
「ソリューションズII解決策」を!

「お魚くわえたドラ猫？」とサザエ
さんのテーマソングを歌いながら、
桜井さんはオフィスに姿を現します。
地下鉄の改札を出ようとして、財布
を忘れたことに気が付き、再度自宅
へ舞い戻ったの登場に、取材前で緊
張気味のこちらの心もほっこり緩み
ます。ラーメン好き小池さん(藤
子不二雄のマンガの登場人物)を彷彿
とさせるヘアスタイルもあいまつ
て、ユーモラスな印象を与える桜井
さんですが、いざ「がん」という病
気のこととなると瞳の奥に厳しい光
が宿ります。

2004年7月6日、設計事務所
のチーフデザイナーとして働き盛り
だった桜井さんは、37歳で乳がん告
知を受けます。治療のための休職後、

職場復帰し、仕事と治療の両立を図
りますが、最終的に退職という選択
をするに至ります。

がん患者が働き続けることの困難
さやがん患者への偏見をはじめ、が
ん患者・家族を取り巻く多くの課題
を自ら痛感した桜井さんは、200
7年7月にキヤンサー・ソリューションズ
株式会社(CANSOL)を立
ち上げます。続いて2009年に、
サバイバーの仲間たちとともに
NPO法人HOPEプロジェクトを
スタート、2011年3月には、一
般社団法人CSRプロジェクトを設
立します。CSRとはCancer
Survivors Recruitingの略です。
これらの団体を通じて、桜井さんは、
文字どおり「キヤンサーIIがん」に
まつわる課題についての「ソリュー
ションズII解決策」を提示し、社会
を変えるべく、精力的に取り組んで
きました。具体的には、がん体験者
の就労問題に関する調査・研究、社
会への提言を始め、患者が仕事への
不安や悩みについて語り合うサバイ
バーシップ・ラウンジや、就労に関
する個別相談に応じる就労ほっと
コール、医療従事者・企業人事担当
者のための就労サポートコールなど
の活動を行っています。

さらには「途上国から世界に通用
するブランドをつくる」ことを目指
すマザーハウスとのコラボで、がん
体験者のことを考え、デザインにも

こだわったシヨルダーバッグの開発
など、その活動は多岐にわたります。

たとえ似合っていないくても
「そのウィック相似合ってる」
と言っただけ(笑)

茶目つ気たっぶりの登場に緊張が
緩んだのも束の間「看護職に望むの
は、いたってシンプル」と始まった
桜井さんのマシニングトークに圧倒
されます。「組織の中で働く看護職な
らば、病気を抜きにしても、上司と
の人間関係や組織で働く大変さなど、
職業人として患者と共感できること
は多々あるはず。なにも特別な
ことではなく、自身の生活の延長線
上に看護があるという生活者目線
つまりは患者・家族と同じ目線を持
つことを看護職には常に忘れないで
いてほしい」と桜井さん。主に病氣
の面をみる医師とは異なり、病氣を
みながら生活面をもサポートできる
のは看護職であるという期待があれ
ばこそその厳しくも温かい言葉が続
きます。

「患者・家族の生活の質を支えるこ
とが看護師の役割であるはずなのに、
あれもダメ、これもダメと生活の質



「平成26年度東京都がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業表彰」を受ける桜井さん



大学などに呼ばれて講演することも多い。医療従事者の卵たちにも知ってほしい患者の想い。



スタッフとの打ち合わせ

看護師ならば誰でも「看護はこうあるべき」という理想像があるでしょう。ナイチンゲールを思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。設計士だった桜井さんは、最初は、現在の病院の基本形をつくった病院建築家としてのナイチンゲールに着目しました。データに基づく看護で、現代の看護の礎を築き上げたナイチンゲールの本領は、統計家でありイノベーターにあるとも桜井さんは指摘します。

「統計家として、明確な理論とデータを持って、看護師の職務を高めていったイノベーターがナイチンゲールです。看護師ならば統計学を学んだはず。何のために学んだのか。数字に則って、看護師の職能を証明していく。現場で使ってこそ、ひいて

理想の看護師像?! 統計家であり 看護の基礎を築き上げた ナイチンゲール

を大にして伝えたいですね。患者側にも不平不満ばかりを言って、看護職に八つ当たりするモンスターベイシエントがいますが、こうした患者を受け入れる必要はないと思っています。自分の人生の主導権は自分がしっかりと握って看護はこうあるべきという世間のイメージに振り回されないことも大切かもしれません」

「まずはつらいですよねの一言があるだけでも、患者は救われます。さらに味がわかりにくいなら、盛り付けを工夫して見た目を楽しくしてみたら? 味見は家族にお願いしちゃいましょう! ともう一步踏み込んで、生活者視点で患者に寄り添う。看護師のちょっとした言葉に患者や家族は安心を覚えます。治療の副作用で髪の毛が抜ける不安と向き合っている患者にとつて、たとえ似合っていない患者にそのウィッグ似合っていると行ってほしいし、そのひと言が嬉し

を下げている専門職が少なくありません。ダメダメリストは医師に譲って、どうすればできるのかというアドバイスをしてほしいし、いっしょに考えてほしい」

がんの治療を受ければ、さまざまな副作用が考えられます。たとえば、味覚障害があると「酢など刺激のあるものを活用しましょう」とアドバイスされます。一方で、口内炎があると「刺激のあるものは避けましょう」と真逆のアドバイスをされます。しかし、実際には味覚障害がある時には口内炎も生じることがあり、教科書どおりのアドバイスをしていては患者さんの実情に対応できません。「まずはつらいですよねの一言があるだけでも、患者は救われます。さらに味がわかりにくいなら、盛り付けを工夫して見た目を楽しくしてみたら? 味見は家族にお願いしちゃいましょう! ともう一步踏み込んで、生活者視点で患者に寄り添う。看護師のちょっとした言葉に患者や家族は安心を覚えます。治療の副作用で髪の毛が抜ける不安と向き合っている患者にとつて、たとえ似合っていない患者にそのウィッグ似合っていると行ってほしいし、そのひと言が嬉し

まずは病院 足元からの就労支援を

就労相談を受ける中で、サバイバーナースIIが体験者の看護職からの就労相談は少なくないと桜井さんは指摘します。患者に対しては就労相談に乗り、サポートしているにもかかわらず、ともに病院で働く職場のスタッフがあんを発症したとしても勤務体制や治療への理解が得られず、転職や退職を余儀なくされているという厳しい現状が浮かび上がります。「大病院ともなれば何百人もの専門職が働く大会社です。にもかかわらず、患者の仕事の相談には乗りながら、病院内では職員への適切な配慮がなされていない。まずは足元から、がんも含め病気になる職員が働き続けられる環境を整えていくことが重要ではないでしょうか」。

また、桜井さんは、従業員が病気になった際に雇い主側が知りたいのは「配慮IIどんな配慮が必要なのか」「見通しII今後どんな変化があり、仕事にどう影響するのかという将来予測」「思いIIこれまで通り働き続けたのか、辞めたいのか、時短で働きたいのかなどの仕事への思い」の3つだと言います。

「医師にインフォームドコンセントで説明は受けていても、病気の告知を受けて混乱の最中にある患者は腑

は患者のためにもなります」と桜井さん。

海外の学会・病院などにも精力的に足を運び、日々の学びを怠らない桜井さんは、米国の病院で目にした看護師長はじめ看護師たちが腕を組んで正面を見据えた「Do it ourselves」というポスターが忘れられないと言います。「米国では医師の管理下に置かれるのではなく、対等な関係を築き上げてきました。日本の看護職の皆さんにも、理論とデータに基づいて、自らの職務を高めていくことができるはずですよ」

最後に、桜井さんと仲間たちの雑談の中から生まれた可愛らしい「スーパーナース」のイラストを見せつつ

「Do it ourselves」のメッセージをくれた桜井さん。何でも一人でこなせるスーパーマンになれ、というだけではもちろんありません。「二人で抱え込むのではなく、適切に投げる。たとえば、就労のことなら相談支援センターにつなぐ。看護の部分をきちんと

に落ちていないし、理解できていません。治療や薬のことがきちんと理解できていないから、どの薬の副作用が出てくるのか、どのくらい続くのか、治療の見通しがどうなるのか、職場が求めている問いにきちんと答えることができません。医師の言葉をわかりやすく翻訳して病気や治療について説明することで、患者が職場に配慮・見通し・思いの3つを伝えられるようサポートするのも看護職の大事な役割の一つではないでしょうか」

ペイシエント・ファースト 患者第一の前に、 自分ファーストII自分を大切に

「看護職としての仕事をまっとうすること、そして同じ生活者としての視線を持つこと。そのためには、ペイシエント・ファーストII患者第一の前に、自分ファーストであることが大切です。自分の心・技・体が整っていないければ、他人の看護ができるわけがないですよ」と桜井さんは続けます。「看護職には、もともとこのころのやさしい方が多いので、どんなにづらい職場環境にあったとしても、患者さんのありがとうという言葉だけでがんばられてしまう。その結果、燃え尽きてしまっただけは意味がありません。自分を大切に、と声

担った上で、同じ生活者としての視点に立つ。スーパーナースに求めることは、決して難しいことではありません」

「がん体験者であり、一職業人であり、一生活者。一統計家であり、イノベーターである桜井さんであるからこそ伝えたい、看護師へのメッセージ。なにかところが動かされたのなら、ナイチンゲールへの道はすでに始まっているはず。Do it ourselves!」



Be a Super Nurse!!
CANSOLのマスコット・キャラクターとともに。